

米国 残高加速は一時的なものに留まる公算大（08年3月消費者信用残高）

発表日：2008年5月26日（月）

～融資基準の厳格化・延滞率上昇により鈍化基調が続こう～

第一生命経済研究所 経済調査部

近江澤 猛(おおみさわ たけし)

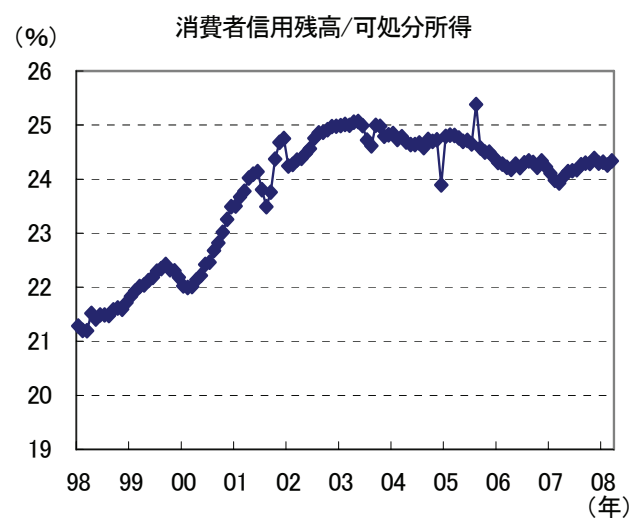
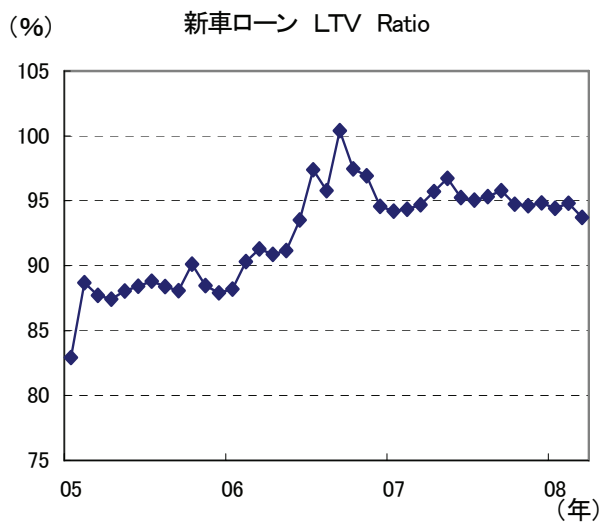
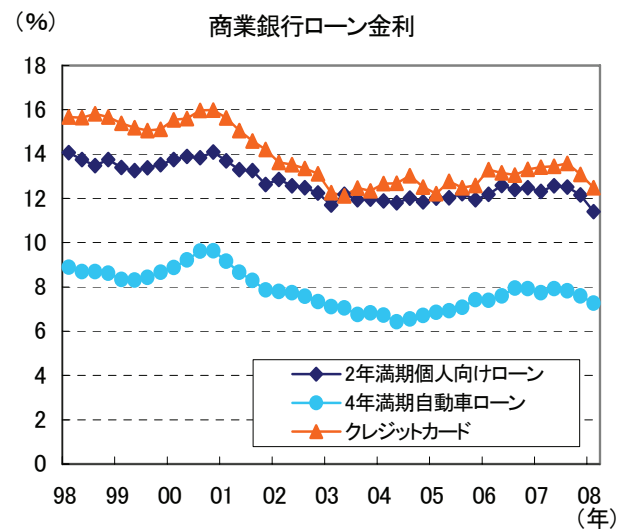
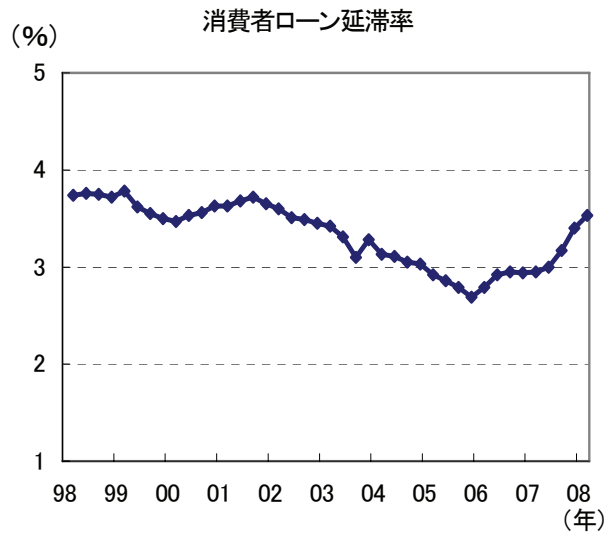
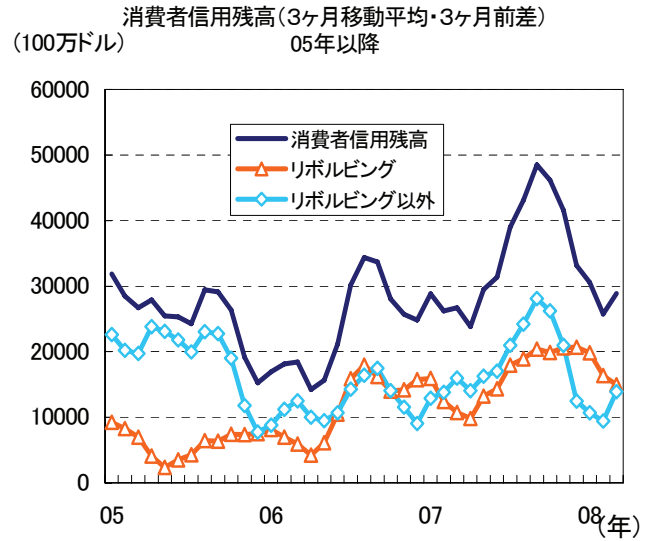
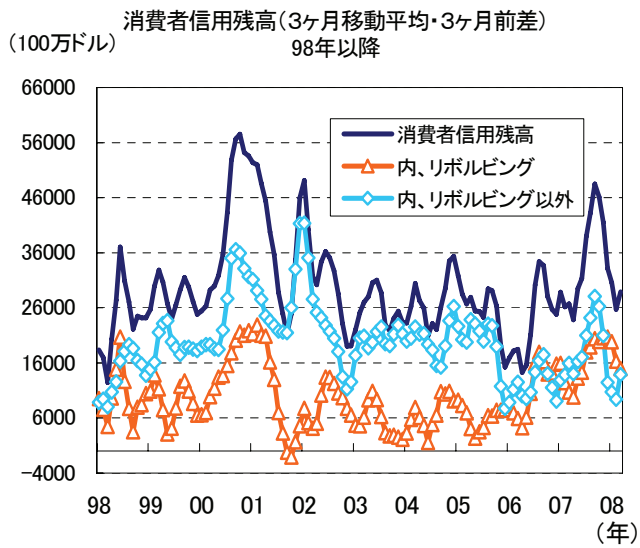
03-5221-4526

- 08年3月の消費者信用残高（季節調整済）は2兆5584億ドル、前月比+153億ドル（前月比年率+7.2%）と前月の同+65億ドル（同+3.1%）から加速し、市場予想の前月比+65億ドルを大幅に上回った。消費者信用残高の増加は98年2月以来続いている。内訳はリボルビング（クレジットカード等）が前月比+63億ドル（前月比年率+7.9%）と前月の同+39億ドル（同+5.0%）から加速。ガソリン価格や暖房用燃料価格が前月から高騰したこと等が影響したとみられる。リボルビング以外（自動車ローン、モービルホームローン、教育ローン等）も同+90億ドル（同+6.8%）と前月の同+26億ドル（同+2.0%）から大幅に加速した。
- 3ヶ月移動平均・3ヶ月前差は上記の影響により前月比小幅増となったものの、増加は融資基準の厳格化により一時的なものに留まると予想される。FRBによる四半期ごとの銀行の貸出態度調査（調査対象は国内銀行56行、海外銀行の支店21行）の結果によると、消費者ローンについて1月の調査と比較して4月の調査で30%が前回調査時から「融資基準を厳格化した」と回答しており、減速要因になっているとみられる。また、消費者信用残高と同時に発表された自動車ローン会社の新車ローンLTV比（購入自動車金額に対するローンの割合）は小幅ながら低下し、銀行の慎重な融資姿勢の現われとみられる。
- 当面は融資基準が緩和されることは想定し難く、新規ローン貸出に対しては下押し要因となるだろう。さらに、07年後半から消費者ローンの延滞率上昇が加速しており、クレジットスコアの悪化を通して、今後のローン貸出に対してマイナスに働くことが予想される。一方、下支え要因としては、07年後半から続くローン金利の低下が挙げられる。しかし、融資基準が厳格化されるもとで、その効果は限定的とみられ、当面は新規ローン貸出の抑制により、消費者信用残高の増加は減速傾向が続く公算が大きい。

	消費者信用残高(10億ドル)			リボルビング(10億ドル)		リボルビング以外(10億ドル)	
		前月差	前月比年率(%)		前月差		前月差
07/07	2465.5	15.9	7.8	909.3	7.1	1556.2	8.8
07/08	2486.9	21.4	10.4	917.2	7.9	1569.7	13.5
07/09	2499.6	12.7	6.1	921.6	4.4	1577.9	8.2
07/10	2504.9	5.4	2.6	929.5	7.8	1575.5	▲ 2.5
07/11	2522.1	17.2	8.2	939.3	9.8	1582.8	7.4
07/12	2524.3	2.2	1.0	941.4	2.2	1582.8	▲ 0.0
08/01	2536.5	12.2	5.8	947.0	5.6	1589.5	6.7
08/02	2543.1	6.5	3.1	950.9	3.9	1592.1	2.6
08/03	2558.4	15.3	7.2	957.2	6.3	1601.1	9.0

（出所）FRB（連邦準備制度理事会）

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所)FRB(連邦準備制度理事会)、Reuter EcoWinより当社作成